

婦人関係業務資料第44号

農外就労婦人に関する調査

— 結果報告書 —

昭和46年

労働省婦人少年局

は し が き

労働省婦人少年局では近年著しく増加している農家婦人の農外就労について、特に事業所に働いている場合の実情を把握し、行政の参考とするためこの調査を行ないました。

調査の実施に当ってご協力を頂いた事業所並びに調査に応じて下さった方々に厚く御礼申し上げます。

昭和45年6月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き	1
調査の概要	4
1 目 的	4
2 実 施 地 域	4
3 調 査 の 対 象	4
4 実 施 時 期	4
5 調 査 方 法	4
6 調 査 項 目	4
調査結果の概要	6
I 事業所調査	6
II 個 人 調 査	6
調査結果	8
I 事業所調査	8
1 調査対象事業所の概況	8
2 農家既婚婦人の雇用状況	9
3 農家既婚婦人に対する配慮等	12
4 農家既婚婦人に対する今後の雇用方針等	15
II 個 人 調 査	16
1 調査対象者の概況	16
2 農外就労の状態	17
3 農外就労と家庭への影響	19
4 農作業と農外就労	21
5 農外就労婦人の意識	22
付 表	
1 業種別・規模別・事業所構成比	29
2 雇用理由別業種別・規模別・事業所構成比	30
3 業種別・規模別・就業時間に関する配慮別事業所構成比	30
4 業種別・規模別・通勤者に対する待遇・福利厚生についての配慮別事業所構成比	32

5 業種別・規模別・農家既婚婦人についての雇用方針	32
6 業種別・規模別・農家既婚婦人の労働力確保計画	34
7 雇用形態別・年令階級別農外就労月収	34
8 主婦の雇用形態別・農作業の比重別・夫の農外就労の有無及び形態	36
9 年令別・雇用形態別・農外就労に対する意識	38
10 夫の農外就労の有・無形態別・国県等に対する希望	40

調査の概要

1. 目的

近年、農村婦人の間で増加しつつある農外就労について特に事業所に働く場合の実態を把握し、農村婦人の福祉対策の参考とすることを目的とした。

2. 実施地域

全国

3. 調査の対象

事業所 農家婦人を雇用する製造業事業所 175事業所

農家婦人 上記事業所に雇用されている農家既婚婦人で、任意に抽出された
1,873名

4. 実施時期

昭和44年12月

5. 調査方法

事業所 面接調査

農家婦人 自計調査

対象事業所において調査票を対象農家婦人に配布し事業所をとめて回収した。

6. 調査項目

事業所調査

- (1) 事業所の状況
- (2) 農家既婚婦人の雇用状況
- (3) 農家既婚婦人の採用年次
- (4) 農家既婚婦人の雇用理由
- (5) 農家既婚婦人の雇用経路
- (6) 農家既婚婦人の主な職種
- (7) 農家既婚婦人の雇用時期

- (8) 農家既婚婦人に対する配慮
- (9) 農家既婚婦人に対する評価
- (10) 農家既婚婦人の今後の雇用方針
- (11) 農家既婚婦人の労働力確保計画

個人調査

- (1) 年 令
- (2) 世帯上の地位
- (3) 夫の農外就労の有無及び就労形態
- (4) 小学生以下の子供の有無及び人数
- (5) 家事責任者
- (6) 農外就労開始時期
- (7) 農作業と農外就労の比重
- (8) 雇用形態
- (9) 職 種
- (10) 手取り賃金
- (11) 農外就労時間
- (12) 農外就労日の農作業の有無
- (13) 欠勤の有無及び理由
- (14) 勤めていて困ることの有無及び理由
- (15) 農外就労に対する意識
- (16) 国県等に対する希望

用語の説明

- ・ 業 種 製造業を産業中分類によって分類した。
- ・ 雇用形態 以下の定義による。

常用雇用者：雇用期間の定めがなく、あるいは一年を超える期間を定めて雇われているもの

臨時雇用者：一年以内の期間を定めて雇われているもの、日雇も含む。

出 稼 者：一日以上一定期間家をはなれて他所に寝泊りして就労しているもの

調査結果の概要

I 事業所調査

- 1 調査対象事業所に雇用されている従業員のうち女子は半数をこえ女子のうち約3割は農家既婚婦人である。

農家既婚婦人の雇用形態は常用、臨時それぞれ半数ずつで出稼者は少ない。

- 2 農家既婚婦人を採用し始めた年次は39年以降が半数をこえ、雇用経路は縁故採用が最も多く、求人広告、職業安定所を通してというものがこれについている。年間の雇用時期は一年中というものが7割をこえ最も多い。

農家既婚婦人を雇用するようになった理由は若年労働力が得られないためというものが最も多く、はじめから農家婦人の労働力をあてにしたものも3割近くある。

- 3 農家既婚婦人に対する配慮では就業時間について配慮している事業所は半数あり、残業をさせないようにしているというものが多い。

待遇、福利厚生については通勤者に対して何らかの配慮をしている事業所は9割近くあり、通勤費の支給、送迎バス等通勤の便に対する配慮が多い。出稼者に対しては、帰郷旅費の支給、出稼者用の住宅、寮等を設けているものが多い。

- 4 農家既婚婦人に対する評価ではよい点としては、辛抱強い、力仕事や汚れた仕事をいやがらないなどで、困る点としては欠勤が多いということが一番多い。

- 5 農家既婚婦人に対する今後の雇用方針は、半数以上が雇用をふやしたいとしており、その労働力確保のための計画としては、労働条件の整備、福利厚生の充実、仕事を内職として委託する等が主なものである。

II 個人調査

- 1 調査対象者の年齢は30才代、40才代が多く両年代で7割以上を占め、世帯上の地位では、世帯主の妻が65%あり最も多い。

- 2 1日の農外就労時間は8時間というものが5割で最も多く、平均農外就労時間は7.97時間である。

- 3 農外就労による手取り賃金は1万5千円以上2万円未満というものが多く、平均賃金は17210円である。

- 4 農外就労を始めた時期は42年以降というものが最も多く、最近になるほど多くなっている。

- 5 夫が農外就労をしている者は72.6%あり、夫の就労形態は常用が6割以上である。

- 6 小学生以下の子供のいる者は約半分あり、その人数は2人以下というのが9割近くある。

- 7 家事を担当しているのは自分というものがほとんどで、夫の母又は自分の母がこれに次いでいる。

- 8 農家婦人が欠勤する理由としては農作業のため、子供の学校のととなどが多い。

- 9 年間を通じての農作業と農外就労のどちらを多くしているかについては農作業以外を多くしているものは47.9%、農作業のほうが多いもの33.1%となっている。

- 10 つとめていて困ることがある者は7割をこえ、その主な理由としては賃金が安い、子供の教育にさしつかえる、過労になるなどである。

- 11 農作業と比べた場合、農外就労についてどのように感じているかをみると、「農作業と同じくらい」「農作業より楽」というものがそれぞれ4割以上で、辛いというものは少ない。

職場の人間関係については6割以上のものが「仲間が多くて楽しい」と答えており、作業に対する感じとしては「簡単な仕事だから気楽でよい」というものが3割あるが、過半数が「どちらともいえない」と答えている。時間的な拘束に対する感じとしては「時間がきちんとしているのでよい」というものが7割以上あり、自分の本当の仕事はどちらかと思っているかについては「勤めに出たのだから勤めを第一に考える」という者が半数をこえている。

- 12 国や県などに対する希望としては、農村への工場誘致を望むものが半数近く、通勤のための交通の整備、内職のあっせんなどを望む者もそれぞれ3割前後ある。

調 査 結 果

I 事業所調査

1 調査対象事業所の概況

調査の対象となった事業所を業種別にみると、食料品製造業が28.6%で最も多く、機械・電気機械器具製造業が19.4%、繊維工業・繊維製品製造業18.9%、木材・木製品・家具装備品製造業7.4%、その他25.7%となっている。(第1表)

第1表 業種別事業所構成比

(%)

実 数	計 %	食 料 品	繊維工業 繊維製品	木材・木製品 家具・装備品	機械・電気 機械器具	そ の 他
175	100.0	28.6	18.9	7.4	19.4	25.7

事業所規模別では、100~299人規模が44.6%で最も多く、300人以上31.4%、30~99人20.0%となっており、30人未満の小規模事業所は4.0%と少なかった。(第2表)

第2表 規模別事業所構成比

(%)

実 数	計 %	30人未満	30~99人	100~299人	300人以上
175	100.0	4.0	20.0	44.6	31.4

調査の対象となった175事業所に雇用される従業員の総数は82,637人であり、そのうち54.8%は女子である。雇用形態は、男子従業員の94.0%が常用雇用者であるのに対し、女子従業員では常用雇用者は72.8%である。

また女子従業員の26.6%は農家既婚婦人である。(第3表)

第3表 雇用形態別従業員構成比

(%)

性	雇用形態	計		常 用	臨 時
		実 数	(%)		
計		82,637人	(100.0)	82.4	17.6
男	子	37,382	(45.2)	94.0	6.0
女	子	45,255	(54.8)	72.8	27.2
		(100.0)			
農家既婚婦人		12,016	(26.6)	50.0	50.0

2 農家既婚婦人の雇用状況

(1) 雇用形態

農家既婚婦人の雇用形態は常用雇用者、臨時雇用者ともそれぞれ50.0%で、出稼者は2.0%である。また雇用形態を事業所の業種別にみると、食料品製造業では臨時が61.8%と過半数であるが、繊維工業・繊維製品製造業72.1%、木材・木製品・家具装備品製造業66.9%、機械・電気機械器具製造業62.9%といずれも常用が多い。(第4表)

第4表 業種別雇用形態別農家既婚婦人

(%)

業 種	雇用形態	計		常 用	臨 時
		実 数	(%)		
計		12,016人	100.0	50.0	50.0
食 料 品		5,328	100.0	38.2	61.8
繊維・繊維製品		1,275	100.0	72.1	27.9
木材・木製品・家具装備品		487	100.0	66.9	33.1
機械・電気機械器具		3,134	100.0	62.9	37.1
そ の 他		1,792	100.0	42.2	57.8

(2) 採用年次

農家既婚婦人を採用しはじめた年次は39年以降というものが52.6%と多く、35年以前

に採用しはじめたもの23.4%、36~38年24.6%となっている。(第5表)

第5表 農家既婚婦人の採用年次別事業所構成比

(%)					
採用年次	総数	35年以前	36~38年	39~41年	42年以降
構成比	100.0	23.4	24.6	26.3	26.3

(3) 雇用経路

農家既婚婦人の雇用経路をみると、59.4%の事業所が縁故採用をしており、次いで求人広告(新聞、はり紙、ちらし等)が48.0%あり、職業安定所を通してというものは33.7%で、一度来たものについて次回も来るよう約束するというものも30.3%あった。(第6表)

第6表 農家既婚婦人の雇用経路別事業所構成比

(%)					
計	職業安定所を通して	求人広告(新聞、はり紙、ちらし等)	縁故	一度来たものについて次回も来るよう約束する	その他
100.0	33.7	48.0	59.4	30.3	16.6

注) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

(4) 雇用時期

農家既婚婦人の雇用時期は一年中というものが73.7%で最も多く、次いで冬の農閑期というものが18.3%、夏の農閑期、夏・冬の農閑期というものは2.9%、5.1%と少ない。

業種別にみると、繊維工業・繊維製品製造業では一年中というものが87.8%あるのに対し、食料品製造業では一年中というものが60.0%、冬の農閑期26.0%と比較的季節的雇用が多い。

(第7表)

第7表 業種別雇用時期別事業所構成比

(%)						
業 種	雇用時期	計	一 年 中	冬の農閑期	夏の農閑期	夏・冬の農閑期
	計	100.0	73.7	18.3	2.9	5.1
食 料 品		100.0	60.0	26.0	8.0	6.0
織 維 ・ 織 維 製 品		100.0	87.8	6.1	—	6.1
木 材 ・ 木 製 品 ・ 家 具 装 備 品		100.0	69.2	23.1	7.0	—
機 械 ・ 電 気 機 械 器 具		100.0	88.2	11.8	—	—
そ の 他		100.0	68.9	22.2	—	8.9

(5) 雇用理由

農家既婚婦人を雇用した理由としては若年労働力が得られなくなったためというものが50.9%で最も多く、はじめから農家婦人の労働力をあてにして工場を作ったというものも29.7%ある。

規模別にみると30人未満および30~99人の規模では、はじめから農家婦人の労働力にたよって、工場を作ったというものがそれぞれ50%あり、300人以上の規模では若年労働力が得られなためというものが69.1%と他の規模に比べ多い。(第8表)

第8表 雇用理由別事業所構成比

(%)						
雇用理由	計	はじめから農村婦人の労働力をあてにした	若年労働力が得られなくなったため	特定時期に繁忙のため	特定時間に繁忙のため	その他
規模						
計	100.0	29.7	50.9	19.4	1.1	16.6
30人未満	100.0	50.0	33.3	—	—	16.7
30~99人	100.0	50.0	44.4	8.3	2.8	8.3
100~299人	100.0	29.5	42.3	15.4	1.3	21.8
300人以上	100.0	14.5	69.1	34.5	—	14.5

注) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

3. 農家婦人に対する配慮など

(1) 就業時間について

就業時間については49.1%の事業所が何らかの配慮をしている。残業をさせないようにしているというものは21.7%で最も多く、就業時間を短く決めているもの9.7%、賃金を時間単位にしているものも14.7%あった。

規模別にみると、300人未満の事業所では何らかの配慮をしているものは50.0%以下であるのに対し、300人以上の事業所では63.6%が何らかの配慮をしている。(第9表)

第9表 規模別就業時間に関する配慮別事業所構成比

規 模	配 慮	計	就業時間 を短かく している	賃金を時 間単位に している	賃金を出来 高又は請負 にしている	残業をさせ ないように している	その他	な し
計		100.0	9.7	14.3	1.7	21.7	12.0	50.9
30人未満		100.0	—	50.0	—	—	—	50.0
30～99人		100.0	2.8	16.7	2.8	13.9	13.9	58.3
100～299人		100.0	7.7	7.7	2.6	21.8	14.1	56.4
300人以上		100.0	18.2	18.2	—	29.1	9.1	36.4

注) 多答式のため各項目の計は100%をとえる。

(2) 待遇、福利厚生について

イ 通勤者に対して

通勤者に対する待遇、福利厚生に対しては89.7%の事業所が何らかの配慮をしており、通勤費を支給するもの69.1%、送迎バスを出すもの44.0%と通勤の便に対する配慮が多い。

また臨時雇用者にも賞与を出すものが37.7%、昇給させるものが34.9%ある。

規模別にみると、規模が小さいほど配慮をしている割合が低くなり、300人以上の事業所で96.4%が何らかの配慮をしているのに対し、30人未満では66.7%である。また規模が大きくなるほど、一事業所でいろいろの配慮をしている。

なお、農繁期休暇を設けているのは99人以下の事業所に多く、昇給、賞与等処遇に関する配慮は100人以上の事業所に多い。(第10表)

第10表 規模別通勤者に対する待遇、福利厚生についての配慮別事業所構成比

規 模	配 慮	計	送迎バスを 出している	通勤費を支 給している	託児施設等 を設けてい る	売店(食料品、 日用品等を扱 う)設けている	農繁期休暇を 設けている
計		100.0	44.0	69.1	8.0	19.4	8.6
30人未満		100.0	—	33.3	—	—	16.7
30～99人		100.0	27.8	75.0	—	—	16.7
100～299人		100.0	42.3	70.5	3.8	10.3	5.1
300人以上		100.0	61.8	67.3	20.0	47.3	7.3

規 模	配 慮	計	相談制度を 設けている	臨時雇用者で も昇給させる	臨時雇用者にも 賞与を出す	その他	な し
計		100.0	7.4	34.9	37.7	12.6	10.3
30人未満		100.0	—	—	16.7	—	33.3
30～99人		100.0	8.3	19.4	22.2	13.9	16.7
100～299人		100.0	2.6	34.6	35.9	6.4	10.3
300人以上		100.0	14.5	49.1	52.7	21.8	3.6

注) 多答式のため各項目の計は100%をとえる。

ロ 出稼者に対して

出稼者に対しては93.3%が特別の配慮をしており、帰郷旅費の支給73.3%、出稼者用の住居、寮等を設けているもの73.3%、慰安会、旅行等が66.7%となっている。(第11表)

第11表 出稼者に対する待遇、福利厚生
に対する配慮別事業所構成比

(%)					
計	出稼者用住宅 寮等を設けている	農繁期休暇を 設けている	帰郷旅費を 支給する	支度金を 支給する	相談制度を 設けている
100.0	73.3	6.7	73.3	33.3	6.7
慰安会、旅 行等をする	留守宅との連絡 (写真、声のたより 等)をとつてやる	出稼者も昇 給させる	出稼者にも 賞与を出す	その他	なし
66.7	20.0	20.0	20.0	13.3	6.7

注1) 多答式のため各項目の計は100%をとえる。

注2) 調査時に女子出稼者を雇用していた15事業所についてのみ集計。

(3) 農家既婚婦人に対する評価

農家既婚婦人を雇用してよいこと、又は困ることの有無については、94.3%の事業所がよいことがあるとしており、その理由としては「辛抱強い」55.4%、力仕事や汚れた仕事をいやがらない46.9%、定着がよい41.1%等があげられている。(第12表)

第12表 農家既婚婦人を雇用してよいこと

(%)								
計	辛抱強い	律儀である	力仕事やこれ た仕事をいやが らない	残業をいや がらない	定着が よい	若年労働者 の面倒をよく みる	その他	なし
100.0	55.4	21.1	46.9	16.6	41.1	9.7	12.0	5.7

注) 多答式のため各項目の計は100%をとえる。

一方困ることもあるという事業所は86.9%あり、中でも欠勤が多いというのが70.3%と最も多く、遅刻・早退が多いが17.7%、能率が悪い15.4%などとなっている(第13表)

第13表 農家既婚婦人を雇用して困ること

(%)								
計	欠勤が多い	遅刻、早 退が多い	能率が悪い	責任感が ない	残業をいや がる	定着性が ない	その他	なし
100.0	70.3	17.7	15.4	9.7	10.3	4.0	8.6	13.1

注) 多答式のため各項目の計は100%をとえる。

4 農家既婚婦人に対する今後の雇用方針など

(1) 今後の雇用方針

今後の農家既婚婦人についての雇用方針をみると、常用をふやしたいというものが32.6%で最も多く、常用も臨時もふやしたいというもの15.4%、臨時をもっとふやしたいというものの6.8%を合わせると、54.8%が雇用をふやしたいと考えている。また臨時のものもできるだけ常用化したい9.7%、農家より勤め人などの主婦の労働力を使いたいというものも8.0%ある。一方省力化を考えているものは14.9%ある。

規模別にみると300人以上の規模では農家既婚婦人の雇用をふやしたいというものは47.3%であるが、100~299人では57.8%、30~99人では64.0%と小規模ほど雇用をふやしたいと考えている。(第14表)

第14表 規模別農家既婚婦人についての雇用方針別事業所構成比

(%)								
雇用方針 規模	計	常用のも のをふや したい	臨時のもの もできるだ け常用化し たい	臨時をも っとふや したい	常用も臨 時もふや したい	省力化等に よる労働力 の労働力をも へらしたい	農家より勤め 人などの主婦 の労働力をも 使いたい	その他
計	100.0	32.6	9.7	6.8	15.4	14.9	8.0	12.6
30人未満	100.0	16.7	—	—	16.7	16.6	16.7	33.3
30~99人	100.0	41.7	5.5	5.6	16.7	8.3	8.3	13.9
100~299人	100.0	38.5	11.5	7.7	11.5	14.1	7.7	9.0
300人以上	100.0	20.0	10.9	7.3	20.0	20.0	7.3	14.6

(2) 農家既婚婦人の労働力確保のための計画

今後の農家既婚婦人の労働力を確保するための計画については労働条件をよくするというものが36.0%で最も多く、福利厚生充実を考えているもの26.3%、内職に出し自宅で仕事ができるようにするというもの16.6%であるが、農村地域に下請工場を作るが10.9%、工

場を農村地域へ進出させるが8.6%と両者については比較的少なかった。(第15表)

第15表 農家既婚婦人の労働力確保計画

(%)

計	工場を農村地域へ進出させる	農村地域に下請工場を作る	内職に出し自宅で仕事ができるようにする	労働条件をもっとよくする	福利厚生施設をもっと充実させる	その他	今のところ特になし
100.0	8.6	10.9	16.6	36.0	26.3	7.4	29.7

注) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

II 個人調査

1. 調査対象者の概況

(1) 調査対象者の勤務先事業所

調査対象者の勤務先事業所の業種は食料品製造業が最も多く31.9%、機械・電気機械器具製造業19.0%、繊維工業、繊維製品製造業18.2%となっている。(第16表)

第16表 業種別対象者数

(人%)

	計	食料品	繊維工業 繊維製品	木材木製品 家具装飾品	機械電気 機械器具	その他	不明
実数	1,873人	598	340	147	356	431	1
%	100.0%	31.9	18.2	7.8	19.0	23.0	0.1

事業所規模別には100~299人規模に働く者が最も多く44.5%、300人以上32.3%、30~99人20.9%、30人未満2.1%で、300人未満の事業所に働く者が6割以上を占めている。(第17表)

第17表 事業所規模別対象者数

(人%)

	計	30人未満	30~99人	100~299人	300人以上	不明
実数	1,873人	39	391	834	606	3
%	100.0%	2.1	20.9	44.5	32.3	0.2

(2) 年令

調査対象者の年令は30才代が42.7%で最も多く、40才代32.9%、50才以上12.3%、20才代12.1%となっており、30才代40才代が7割以上を占める。(第18表)

第18表 年令階級別対象者数

(人%)

	計	20~29才	30~39才	40~49才	50才以上
実数	1,873人	226	799	617	231
%	100.0%	12.1	42.7	32.9	12.3

(3) 世帯上の地位

世帯上の地位別では、世帯主の妻である者が65.1%で最も多く、息子の妻25.3%がこれに次ぎ、世帯主及び世帯主の母という者は少い。(第19表)

第19表 世帯上の地位別対象者数

(人%)

	計	世帯主	世帯主の妻	世帯主の母	息子の妻	その他	不明
実数	1,873人	95	1,219	49	475	34	1
%	100.0%	5.1	65.1	2.6	25.3	1.8	0.1

2 農外就労の状態

(1) 雇用形態

調査対象者の雇用形態は、常用51.2%、臨時45.0%、出稼3.5%である。(第20表)

第20表 雇用形態別構成比

(%)

計	常用	臨時	出稼	不明
100.0	51.2	45.0	3.5	0.3

(2) 農外就労開始時期

農外就労を始めた時期をみると、昭和42年以降という者が41.9%で最も多く、次いで39~41年29.3%、36~38年16.6%、35年以前11.8%で最近ほど多くなっている。(第21表)

なお、前述のとおり事業所として農家婦人を採用しはじめた時期は、35年以前、36~38

年の時期のものがこれよりやや多い。(事業所調査参照)

第21表 農外就労の開始時期

計	昭和35年以前	36~38年	39~41年	42年以降	不 明
100.0	11.8	16.6	29.3	41.9	0.4

(3) 農外就労時間

1日の農外就労の実労働時間(昼休み時間などを除いたもの)は、8時間と答えた者は約半数の51.5%で、6時間以上8時間未満31.6%、8時間を超えるもの16.2%となっており、平均就労時間は7.97時間と約8時間になっている。

雇用形態別にみると、常用、臨時では大きな差はみられないが、出稼では6時間以上8時間未満の者は10.6%と少なく、8時間を超える者が36.4%となっており、他の雇用形態より就労時間が長い者が多い。(第22表)

第22表 雇用形態別1日の農外就労時間

	計	6時間未満	6~8時間未満	8時間	8時間を超える	不 明
計	100.0	0.4	31.6	51.5	16.2	0.3
常 用	100.0	0.3	30.2	50.6	18.7	0.2
臨 時	100.0	0.5	35.0	52.8	11.7	—
出 稼	100.0	—	10.6	48.5	36.4	4.5
不 明	100.0	—	—	60.0	40.0	—

注) 農外就労時間について回答のあった者は1,873人中1,868人(99.7%)でそれを100とした。

(4) 農外就労による月収

農外就労による1ヶ月の手取り賃金は、1万5千円以上2万円未満というものが39.2%で最も多く、2万円以上2万5千円未満23.1%、1万円以上1万5千円未満19.5%の順となっている。なお、農外就労による平均手取り賃金は17,210円である。(第23表)

第23表 農外就労による月収額

(%)

計	~1万円	1万~1万5千円未満	1万5千~2万円未満	2万~2万5千円未満	2万5千~3万円未満	3万~	不 明
100.0	6.1	19.5	39.2	23.1	7.3	3.0	1.8

注) 月収額についての回答のあった者は1,873人中1,840人(98.2%)でそれを100とした。

(5) 夫の農外就労の有無及び就労形態

調査対象者のうち夫も農外就労をしていると答えた者は72.6%あり、していない者20.3%、夫がいない者6.9%である。夫の農外就労形態では常用が最も多く63.4%、次いで臨時31.2%、出稼4.9%となっている。

妻の雇用形態別にみると、夫が農外就労をしている割合は妻が常用の場合に最も高く79.9%で、妻が出稼の場合は30.3%と低い。また妻が常用の場合は夫の就労形態も常用が多く、妻が出稼の者では夫も出稼に出ている者が多い。(第24表)

第24表 妻の雇用形態別夫の農外就労の有無・形態

(%)

	計	夫が農外就労している						夫が農外就労していない	夫なし	不 明
		小 計	常 用	臨 時	出 稼	自 営	不 明			
計	100.0	72.6 100.0	63.4	31.2	4.9	0.2	0.3	20.3	6.9	0.2
常 用	100.0	79.9 100.0	77.4	17.9	4.4	0.3	—	12.3	7.7	0.1
臨 時	100.0	67.7 100.0	45.7	49.9	3.7	0.2	0.5	27.6	4.5	0.1
出 稼	100.0	30.3 100.0	25.0	10.0	60.0	—	5.0	40.9	27.3	1.5
不 明	100.0	40.0 100.0	100.0	—	—	—	—	60.0	—	—

3 農外就労と家庭への影響

(1) 小学生以下の子供の有無及び人数

小学生以下の子供がいる者は50.3%でほぼ半数である。小学生以下の子供の人数は1人(44.0%)又は2人(44.3%)がほとんどであるが3人以上という者(11.3%)もある。(第25表)

第25表 子供の有無及び人数

(%)

計	小学生以下の子供のいる					子供なし	不明
	小計	小学生以下の子供の数					
		1人	2人	3人以上	不明		
100.0	50.3					49.3	0.4
	100.0	44.0	44.3	11.3	0.4		

(2) 家事責任者について

主な家事担当者についてみると、自分と答えた者が76.5%と大半を占め、夫の母又は自分の母と答えた者16.9%、息子の妻又は娘というものが5.3%となっている。

年令別にみると自分と答えた者は40才代で最も多く84.9%あり、50才以上では65.4%と他の年代に比べて低い。20才代、30才代では夫の母又は自分の母と答えた者が他の年代より多く、50才以上では息子の妻又は娘と答えた者が3.0.7%ある。(第26表)

第26表 年令階級別家事責任者

(%)

	計	自分	夫の母又は 自分の母	息子の妻 又は娘	その他	不明
計	100.0	76.5	16.9	5.3	1.2	0.1
～29才	100.0	69.5	28.3	—	1.8	0.4
30～39才	100.0	75.1	23.2	0.6	1.0	0.1
40～49才	100.0	84.9	9.9	3.9	1.3	—
50才～	100.0	65.4	3.0	30.7	0.9	—

(3) 欠勤の有無及び理由

欠勤の有無についてはほとんどの者(92.6%)が休むことがあると答えている。

欠勤の主な理由としては、最も多いのが「農作業のため」で6割に近く、次いで「子供の学校のこと」、「近所・親せき付き合い」がそれぞれ3割以上ある。「自分の病気、けがや疲れ」、「夫・子供・老人の病気など」は2割前後である。(第27表)

第27表 欠勤の有無・及び理由

(%)

計	勤めを休むことあり							休むことなし	不明
	小計	自分の病気、ケガや疲れ	夫、子供、老人の病気など	子供の学校のこと	近所、親せき付き合い	農作業のため	その他		
100.0	92.6							7.4	—
	100.0	22.7	19.1	37.4	32.1	59.8	3.5		

注) 多答式のため各項目の計は100をこえる。

4 農作業と農外就労

(1) 農外就労日の農作業の有無及び理由

農外就労日にも出勤前か、帰宅後農作業をしているか、その状態をみると、していると答えた者32.9%、していない者が66.4%あった。農外就労日にも農作業をしている者について、農作業時間を聞くと、2時間未満のものが最も多く44.2%、2時間以上3時間未満33.4%、3時間以上4時間未満12.8%となっており、4時間以上の者も7.4%あった。

農外就労時間と農作業時間を合わせた1日の総労働時間は8時間以上10時間未満が53.8%で最も多く、10時間以上12時間未満が35.2%でこれに次いでいる。(第28表)

なお、朝夕に農作業をしていない者が多かったことについてはこの調査の時期が冬であったための影響があったことも考えられる。

第28表 農外就労日の農作業の有無及び時間

(%)

計	農外就労日にも農作業をしている											して ない	不明
	小計	農作業時間					1日の総労働時間						
		2時間 未満	2~3時 間未満	3~4時 間未満	4時間 ~	不明	8時間 未満	8~10 時間未満	10~12 時間未満	12時 間~	不明		
100.0	32.9											66.4	0.6
	100.0	44.2	33.4	12.8	7.3	2.3	3.1	53.8	35.2	5.5	2.4		

2 農外就労婦人の年間を通じての農作業の比重

一年を通じて農業稼働時間と農外就労の時間とどちらが多いかについては、「農業以外の仕事を多くしている」という者が半分近く47.9%あり、「農業を多くしている」ものが33.1%、「どちらともいえない」9.9%、「農業は殆んどしていない」9.0%であった。(第29表)

第29表 雇用形態別年間を通じての農作業の比重

農作業の 雇用形態	計	農業を多く している	農業以外の仕事 を多くして いる	どちらと もいえない	農業はほと んどしてい ない	不 明
計	100.0	33.1	47.9	9.9	9.0	0.1
常 用	100.0	5.6	72.6	6.4	15.4	—
臨 時	100.0	61.0	22.9	13.9	2.1	0.1
出 稼	100.0	77.3	12.1	7.6	3.0	—
不 明	100.0	20.0	20.0	40.0	—	20.0

5 農外就労婦人の意識

(1) 勤めていて困ることの有無及び理由

勤めていることに関しての困ることの有無については、困ることがあると答えた者は71.6%であったが、その理由で最も多いものは「賃金が安い」で48.1%、次いで「子供のせわしつけ、教育にさしつかえる」34.4%、「農業にさしつかえる」24.2%、「食事の仕度、掃除、洗濯など家事にさしつかえる」34.4%、「自分が過労になる」20.7%の順となっている。(第30表)

第30表 勤めていて困ることの有無及び理由

勤めていて困ることがある													困ることなし	不明
計	小計	長い労働時間が	賃金が安い	仕事に辛い	仕事に危い	職場が遠い	農業にさしつかえる	家事にさしつかえる	子供の教育にさしつかえる	自分になるが過労	その他	困ることなし	不明	
1000	716											281	83	
	1000	54	481	31	44	179	242	219	344	207	22			

注) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

(2) 農作業と農外就労

農作業と比べて仕事に辛いのか楽かその感じ方をみると「農作業と同じくらい」と答えた者が46.3%で最も多く、「農作業より楽」と答えた者42.1%、「農作業より辛い」と答えた者10.8%となっている。

職場の人間関係については「仲間が多いので楽しい」という者が63.1%を占め、「どちらともいえない」が28.2%、「人間関係がわずらわしい」者は8%である。

仕事に対する感じとしては、「簡単な仕事だから気楽でよい」という者が34.7%、「きまりきった仕事でつまらない」が6.9%であるが「どちらともいえない」が57.4%で過半数である。

時間的な拘束についての感じとしては、「時間がきちんとしているのでよい」が75.1%と大半を占め、「時間にしばられるのできゅうくつ」と感じている者は22.9%である。

農外就労婦人達が自分の本当の仕事はどちらかと思っているかという点については「勤めに出たのだから勤めを第1に考える」と答えた者が54.9%と半数をこえたが「たとえ一時外に出ても本業は農業」と思っている者が27.0%、「どちらともいえない」という者が17.5%となっている。(第31表)

第31表 農業就労に対する意識

1	労働の程度			
計	農作業より楽である	農作業よりつらい	同じくらい	不 明
100.0	42.1	10.8	46.3	0.8
2	人間関係			
計	仲間が多いので うれしい	人の関係がわ ざらわしい	どちらともい えない	不 明
100.0	63.1	8.0	28.2	0.7
3	作業の形態			
計	決まりきった仕事 でつまらない	簡単な仕事だから 気楽でよい	どちらともい えない	不 明
100.0	6.9	34.7	57.4	1.0
4	時間的拘束			
計	時間に縛られるの できゅうくつ	時間がきちん としているのでよい	不 明	
100.0	22.9	75.1	2.0	
5	本業としての意識			
計	たとえ一時外に出て も本業は農業	勤めに出たのだから 勤めを第1に考える	どちらともい えない	不 明
100.0	27.0	54.9	17.5	0.5

(3) 国・県等に対する希望

農外就労婦人の国や県などに対する希望としては「農村にももっと工場ができるようにしてほしい」という要望が最も多く49.1%と約半数あり、次いで「勤めにゆくために交通の便をよくしてほしい」33.2%、家でできる内職を世話してほしい27.7%の順となっている。「農村に子供を預ってくれるところを作ってほしい」という要望は問題を切実に感じていると思われる20才代が著しく多く、また、農村への工場誘致や内職あっせんについては出稼者の場合に要望が多い。(第32表)

第32表 年令階級別・雇用形態別国・県等に対する希望

(%)

区 分	総 数	農村にももっと工場ができるようにしてほしい	勤めにゆくための交通の便をよくしてほしい	家でできる内職を世話してほしい	農村に子供を預ってくれるところを作ってほしい	農業以外の仕事につき時方をするやうに習えらうに	農業をやめるのにお金や住宅の心配がないように	農地の売買賃借が円滑にできてほしい	その他	特になし	不明
総 数	1000	49.1	33.2	27.7	5.9	7.8	9.0	7.3	2.1	22.6	0.9
年 令											
29	1000	38.5	38.5	23.9	20.8	7.1	6.6	5.3	1.8	23.5	0.9
30											
39	1000	49.8	36.5	28.8	5.9	8.9	10.1	6.1	2.5	19.6	0.9
40											
49	1000	52.5	32.1	27.6	1.8	7.9	8.6	7.8	1.6	22.9	1.1
50	1000	47.6	19.0	28.1	2.6	4.3	8.7	11.7	2.6	31.2	0
常 用	1000	48.0	34.7	23.1	7.5	7.3	11.3	8.6	2.2	22.7	0.7
雇 用											
臨時	1000	49.1	32.5	30.6	4.4	8.7	7.1	5.9	2.3	22.7	0.9
出 稼	1000	68.2	18.2	56.1	3.0	3.0	1.5	6.1	0	18.2	1.5
形 態											
不明	1000	0	40.0	40.0	0	20.0	0	0	0	40.0	0

注) 多様式のため各項目の計は100%をこえる。

付

表

I 事業所調査

付表1 業種別・規模別・事業所構成比

(%)

業 種 \ 規 模	計	30人未満	30～99人	100～299人	300人以上
計	100.0	4.0	20.0	44.6	31.4
食 料 品	100.0	—	18.0	50.0	32.0
織 維 工 業 織 維 製 品	100.0	6.0	36.4	39.4	18.2
木材・木製品 家具・装備品	100.0	—	23.1	76.9	—
機械・電気機 械器具	100.0	—	17.6	26.5	55.9
そ の 他	100.0	8.9	13.3	46.7	31.1

付表2 雇用理由別・業種別・規模別事業所

業種・規模		計		はじめからあて にして
		実数	%	
計		175	100.0	29.7
業 種	食料品	50	100.0	32.0
	繊維工業・繊維製品	33	100.0	27.3
	木材・木製品・家具・装備品	13	100.0	15.4
	機械・電気機械器具	34	100.0	38.2
	その他	45	100.0	26.7
規 模	30人未満	6	100.0	50.0
	30～99人	36	100.0	50.0
	100～299人	78	100.0	29.5
	300人以上	55	100.0	14.5

注) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

構成比

		若年労働力が得ら れないため	特定時期に繁忙な ため	特定時間に繁忙 なため	そ の 他
計		50.9	19.4	1.1	16.6
業 種	食料品	40.0	44.0	—	10.0
	繊維工業・繊維製品	63.6	—	—	15.2
	木材・木製品・家具・装備品	69.2	—	7.7	30.8
	機械・電気機械器具	55.9	11.8	2.9	11.8
	その他	44.4	17.8	—	24.4
規 模	30人未満	33.3	—	—	16.7
	30～99人	44.4	8.3	2.8	8.3
	100～299人	42.2	15.4	1.3	21.8
	300人以上	69.1	34.5	—	14.5

付表3 業種別・規模別・就労時間に関する

配慮別事業所構成比

業種・規模		計		就業時間を短 かくしている	賃金を時間単位 としている	賃金は出来高又は 請負にしている	残業させないよう にしている	そ の 他	な し
		実数	%						
計		175	100.0	9.7	14.3	1.7	21.7	12.0	50.9
業 種	食料品	50	100.0	2.0	22.0	2.0	30.0	12.0	42.0
	繊維工業・繊維製品	33	100.0	9.1	15.2	3.0	9.1	12.1	51.5
	木材・木製品・家具・装備品	13	100.0	—	7.7	—	15.4	30.8	53.8
	機械・電気機械器具	34	100.0	23.5	5.9	—	20.6	8.8	50.0
	その他	45	100.0	11.1	13.3	2.2	24.4	8.9	60.0
規 模	30人未満	6	100.0	—	50.0	—	—	—	50.0
	30～99人	36	100.0	2.8	16.7	2.8	13.9	13.9	58.3
	100～299人	78	100.0	7.7	7.7	2.6	21.8	14.1	56.4
	300人以上	55	100.0	18.2	18.2	—	29.1	9.1	36.4

注) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

付表 4

業種別・規模別・通勤者に対する待遇、福利厚

生についての配慮別、事業所構成比

(%)

業種・規模		計		送迎バスを出 している。	通勤費を支給 している	託児施設等を 設けている	売店(食料品 日用品等を扱 う)を設けている	農業期休暇を 設けている	相談制度を設 けている	臨時雇用者で も昇給させる	臨時雇用者で も賞与を出す	その他	な し
		実 数	%										
計		175	100.0	44.0	69.1	8.0	19.4	8.6	7.4	34.9	37.7	12.6	10.3
業 種	食 料 品	50	100.0	60.0	72.0	14.0	20.0	10.0	8.0	44.0	46.0	12.0	4.0
	繊維工業・繊維製品	33	100.0	30.3	60.6	6.1	18.2	12.1	9.1	18.2	24.2	6.1	18.2
	木材・木製品・家具・装備品	13	100.0	38.5	61.5	—	—	7.7	—	23.1	15.4	38.5	7.7
	機械・電気機械器具	34	100.0	44.1	73.5	8.8	29.4	5.9	11.8	44.1	47.1	11.8	5.9
	そ の 他	45	100.0	37.8	71.1	4.4	17.8	6.7	4.4	33.3	37.8	11.1	15.6
規 模	30人未満	6	100.0	—	33.3	—	—	16.7	—	—	16.7	—	33.3
	30～99人	36	100.0	27.8	75.0	—	—	16.7	8.3	19.4	22.2	13.9	16.7
	100～299人	78	100.0	42.3	70.5	3.8	10.3	5.1	2.6	34.6	35.9	6.4	10.3
	300人以上	55	100.0	61.8	67.3	20.0	47.3	7.3	14.5	49.1	52.7	21.8	3.6

注) 多答のため各項目の計は100%をとえる。

付表 5

業種別・規模別・農家既婚婦人に

ついで雇用方針

(%)

業種・規模		計		常用のものをふ やしたい	臨時のものもで きるだけ常用化 したい	臨時をもつと増や したい	常用も臨時も増 やしたい	機械化等により全 般的に労働力を減 らしたい	農家より勤め人など の主婦の労働力をも つと使いたい	そ の 他
		実 数	%							
計		175	100.0	32.6	9.7	6.8	15.4	14.9	8.0	12.6
業 種	食 料 品	50	100.0	14.0	12.0	10.0	22.0	26.0	8.0	8.0
	繊維工業・繊維製品	33	100.0	48.9	3.0	6.1	15.2	3.0	3.0	21.2
	木材・木製品・家具・装備品	13	100.0	53.8	—	7.7	—	15.4	7.7	15.4
	機械・電気機械器具	34	100.0	38.2	11.8	5.9	11.8	8.8	5.9	17.6
	そ の 他	45	100.0	31.1	13.3	4.4	15.6	15.6	13.3	6.7
規 模	30人未満	6	100.0	16.7	—	—	16.7	16.6	16.7	33.3
	30～99人	36	100.0	41.7	5.5	5.6	16.7	8.3	8.3	13.9
	100～299人	78	100.0	38.5	11.5	7.7	11.5	14.1	7.7	9.0
	300人以上	55	100.0	20.0	10.9	7.3	20.0	20.0	7.3	14.6

付表6

業種別・規模別・農家既婚婦人の

労働力確保計画

(%)

労働力確保計画 業種・規模		計		工場を農村地 域へ進出させ る	農村地域に下 請工場をつく る	内職に出し自 宅で仕事ので きるようにする	労働条件をも つとよくする	福利厚生施設 をもつと充実 させる	そ の 他	今のところ特 になし
計		実 数	%							
計		175	100.0	8.6	10.9	16.6	36.0	26.3	7.4	29.7
業 種	食 料 品	50	100.0	8.0	12.0	14.0	40.0	30.0	8.0	22.0
	繊維工業・繊維製品	33	100.0	12.1	6.1	27.3	42.4	27.3	3.0	24.2
	木材・木製品・家具・装備品	13	100.0	—	15.4	—	38.5	38.5	23.1	23.1
	機械・電気機械器具	34	100.0	11.8	8.8	17.6	35.3	23.5	5.9	29.4
	そ の 他	45	100.0	6.7	13.3	15.6	26.7	20.0	6.7	44.4
規 模	30人未満	6	100.0	—	—	16.7	16.7	—	16.7	50.0
	30～99人	36	100.0	8.3	19.4	19.4	36.1	19.4	16.7	22.2
	100～299人	78	100.0	5.1	10.3	17.9	29.5	24.4	5.1	34.6
	300人以上	55	100.0	14.5	7.3	12.7	47.3	36.4	3.6	25.5

地) 多答式のため各項目の計は100%をこえる。

Ⅱ 個人調査

付表7

雇用形態別・年齢階級別・農外就

労月収

(%)

雇用形態・年齢 月収額		計		1万円未満	1万～ 1万5千円未満	1万5千～ 2万円未満	2万～ 2万5千円未満	2万5千～ 3万円未満	3万円以上	不 明
計		100.0		6.1	19.5	39.2	23.1	7.3	3.0	1.8
雇 用 形 態	常 用	100.0		4.1	17.1	39.5	24.2	9.9	4.8	0.4
	臨 時	100.0		8.3	23.4	41.9	20.3	2.1	0.7	3.3
	出 稼	100.0		7.6	3.0	1.5	45.5	34.8	7.6	—
	不 明	100.0		20.0	40.0	20.0	—	—	—	20.0
年 令	～29才	100.0		3.5	13.3	45.1	24.3	11.5	1.3	0.1
	30～39才	100.0		4.3	19.0	44.4	20.5	6.8	3.8	1.3
	40～49才	100.0		6.8	21.7	35.7	23.8	6.7	2.9	2.4
	50才～	100.0		13.4	21.2	24.7	29.0	6.5	2.6	2.6

付表 8

主婦の雇用形態別・農作業の比重

夫の農外就労 妻の雇用形態 農作業の比重		計	夫も農外就労		
			常 用	臨 時	
計		1 0 0.0	7 2.6 1 0 0.0	6 3.4	3 1.2
雇 用 形 態	常 用	1 0 0.0	7 9.9 1 0 0.0	7 7.4	1 7.9
	臨 時	1 0 0.0	6 7.7 1 0 0.0	4 5.7	4 9.9
	出 稼	1 0 0.0	3 0.3 1 0 0.0	2 5.0	1 0.0
	不 明	1 0 0.0	4 0.0 1 0 0.0	1 0 0.0	—
農 作 業 の 比 重	農作業を多くしている	1 0 0.0	6 1.5 1 0 0.0	3 8.8	5 4.4
	農業以外の仕事を多 くしている	1 0 0.0	7 9.4 1 0 0.0	7 4.5	2 1.1
	どちらともいえない	1 0 0.0	6 9.7 1 0 0.0	5 5.8	3 7.2
	農業はほとんどして いない	1 0 0.0	7 9.8 1 0 0.0	8 1.3	1 2.7
	不 明	1 0 0.0	1 0 0.0 1 0 0.0	5 0.0 5 0.0	5 0.0 5 0.0

別夫の農外就労の有無及び形態

(%)

し て い る			夫は農外就 労していない	夫 な し	不 明
出 稼	自 営	不 明			
4.9	0.2	0.3	20.3	6.9	0.2
4.4	0.3	—	12.3	7.7	0.1
3.7	0.2	0.5	27.6	4.5	0.1
60.0	0	5.0	40.9	27.3	1.5
—	—	—	60.0	—	—
6.8	—	—	33.1	5.3	0.2
3.8	0.3	0.3	12.1	9.2	0.2
5.4	0.8	0.8	23.8	6.5	—
5.2	—	0.7	13.7	6.5	—
—	—	—	—	—	—

付表9 年令別・雇用形態別農外就

業に対する意識

(%)

年令 雇用形態		1. 労働の程度					2. 人間関係				
		計	農作業より 少である	農作業より 多い	同じくらい	不 明	計	仲間が多いので 楽しい	人の関係がわず らわしい	どちらともい えない	不 明
計		100.0	42.1	10.8	46.3	0.8	100.0	63.1	8.0	28.2	0.7
年令	～29才	100.0	50.0	10.2	38.9	0.9	100.0	67.3	8.8	23.0	0.9
	30～39才	100.0	42.8	11.6	44.8	0.8	100.0	64.1	8.3	27.3	0.4
	40～49才	100.0	40.5	12.0	46.8	0.7	100.0	60.5	8.2	30.5	0.8
	50才～	100.0	36.4	5.6	57.1	0.9	100.0	62.8	5.6	30.7	0.9
雇用形態	常用	100.0	44.0	9.8	45.3	0.9	100.0	64.1	9.6	25.9	0.4
	臨時	100.0	39.4	12.6	47.8	0.2	100.0	62.5	6.5	30.5	0.5
	出稼	100.0	53.0	4.6	40.9	1.5	100.0	59.1	4.5	31.8	4.6
	不明	100.0	0	0	60.0	40.0	100.0	20.0	0	60.0	20.0

		3. 作 業 の 形 態					4. 時 間 的 拘 束				5. 本 業 と し て の 意 識				
		計	きまりきつ た仕事でつ まらない	簡単な仕事 だから気楽 でよい	どちらとも いえない	不 明	計	時間にしば られるので きゆうくつ	時間がきち んとしてい るのよい	不 明	計	たとえ一時 外に出ても 本業は農業	勤めに出た のだから勤 めを第一に	どちらとも いえない	不 明
年 令	計	100.0	6.9	34.7	57.4	1.0	100.0	22.9	75.1	2.0	100.0	27.0	54.9	17.5	0.5
	20代	100.0	8.9	36.3	53.5	1.3	100.0	23.0	76.1	0.9	100.0	23.9	54.0	21.7	0.4
	30代	100.0	8.5	29.9	60.8	0.8	100.0	23.5	75.0	1.5	100.0	29.3	52.7	17.6	0.4
	40代	100.0	6.0	36.5	56.2	1.3	100.0	24.9	72.0	3.1	100.0	27.4	55.8	16.2	0.6
	50以上	100.0	2.2	44.6	52.4	0.9	100.0	15.6	82.7	1.7	100.0	21.2	61.5	16.4	0.9
雇 用 形 態	常 用	100.0	7.4	31.0	61.0	0.7	100.0	21.0	77.3	1.8	100.0	14.8	69.0	16.0	0.2
	臨 時	100.0	6.5	38.7	53.7	1.1	100.0	25.9	72.1	2.0	100.0	40.3	39.0	19.9	0.7
	出 稼	100.0	6.1	37.9	54.5	1.5	100.0	16.7	81.8	1.5	100.0	31.8	56.1	10.6	1.5
	不 明	100.0	0	20.0	40.0	40.0	100.0	0	60.0	40.0	100.0	60.0	20.0	0	20.0

付表10 夫の農外就労の有無・形態別

国、県等に対する希望

(%)

夫の農外就労		計	農村にもつと工場ができるようにして	勤めに行くために交通の便をよくしてほしい	家でできる内職を世話ししてほしい	農村に子供を預ってくれる所を作してほしい	農業以外の仕事につく時、仕事のやり方を習えるように	農業をやめて他の仕事に変わるのにお金や住宅の心配がないように	農地の売買・貸借が円滑にできるようにして	その他	特になし	不明
計		100.0	49.1	33.2	27.7	5.9	7.8	9.0	7.3	2.1	22.6	0.9
夫の農外就労形態	常用	100.0	46.5	34.1	28.2	8.1	6.3	10.7	7.9	2.3	22.5	0.7
	臨時	100.0	51.2	38.0	26.7	4.2	9.0	7.5	6.0	1.2	20.5	0.5
	出稼	100.0	59.7	26.9	23.9	6.0	11.9	7.5	9.0	4.5	17.9	3.0
	自営	100.0	66.7	0	33.3	0	0	33.3	0	0	33.3	0
	不明	100.0	50.0	50.0	25.0	0	25.0	0	0	0	25.0	0
夫は農外就労していない		100.0	47.8	29.9	29.1	3.1	10.2	6.0	6.8	2.4	25.2	1.0
夫なし		100.0	58.5	23.8	26.2	5.4	4.6	12.3	8.5	1.5	24.6	0.8
不明		100.0	0	33.3	0	0	0	0	0	33.3	0	33.3

注) 多答式のため各項目の計は100%をとる。

農外就労婦人に関するアンケート（事業所用）

※事業所名					※所在地				
※都道府県名	※産業中分類番号	※事業所規模							
〒		1 30人未満	2 30～99人	3 100～299人	4 300人以上				

◎記入の仕方：質問に対する答は、該当する番号を○で囲むか、またはあてはまる答を記入して下さい。
なお、家のごとくは婦人少年室が記入します。

問1 事業所の状況について

主な製品

お尋ねします。

(昭和44年12月現在)

従業員数

(従業員数の中には臨時も含めます。)

	男	女	計
常用	1	1	
臨時	2	2	
計			

問2 現在雇用している農家既婚婦人の雇用形態別人員についてお尋ねします。

雇用形態	人	員
1 常用雇用者		
2 臨時雇用者		
3 出稼者		
計		

(注) 1 常用雇用者とは、雇用期間の定めがなく、あるいは1年を超える期間を定めて雇われている者をいう。
2 臨時雇用者とは、1年以内の期間を定めて雇われている者をいう。この場合日雇も含む。
3 臨時雇用者のうち出稼者とは、1日以上一定期間家を離れて他所に宿泊して就労している者をいう。

問3 農家既婚婦人をいつ頃から採用しましたか。

昭和 年頃より

問4 農家既婚婦人を雇用するようになった理由は何ですか。

1	はじめから農村婦人の労働力をあてにして工場を作った
2	若年労働力が得られなくなったため
3	特定時期に繁忙のため
4	特定時期に繁忙のため
5	その他()

問5 農家既婚婦人の雇用経路は次のうちどれによりますか。(主なものを二つ選んで下さい。)

1	職業安定所を通して
2	求人広告(新聞、はり紙、ちらし等)
3	親戚
4	一度来た者について次回も来るように約束する
5	その他()

問6 農家既婚婦人の主な職種は次のうちどれですか。(一つ選んで下さい。)

1	事務従事者
2	技能工・生産工程従事者
3	単純労働者
4	販売等サービス従事者

(注) 1 事務とは、一般事務、経理、受付等をいう。
2 技能工・生産工程従事者とは、生産工程に属し、かなりの技能を要する作業(機械組立、織布、縫製等)に従事する者をいう。
3 単純労働とは、短期間に習得でき、経験を必要としないもの(包装、箱詰運搬等)をいう。
4 販売等サービスとは、店員等をいう。

問7 農家既婚婦人の雇用時期はいつですか。

1	一年中を通して
2	冬の農閑期
3	夏の農閑期
4	夏・冬の農閑期
5	その他()

問8 農家既婚婦人を雇用するにあたり、特に配慮していることがありますか。

1 就労時間について

1	他の一般労働者より就業時間を短かく決めている
2	始業、終業は規制せず賃金を時間単位としている
3	始業、終業は規制せず賃金を出来高又は請負にしている
4	残業をさせないようにしている
5	その他()
6	なし

2 待遇、福利厚生について

(1) 通勤者に対して

1	送迎バスを出している
2	通勤費を支給している
3	託児施設等を設けている
4	売店(食料品、日用品等を扱う)を設けている
5	農繁期休暇を設けている
6	相談制度を設けている
7	臨時雇用者でも昇給させる
8	臨時雇用者でも賞与を出す
9	その他()
10	なし

(2) 出稼者に対して

1	出稼者用住宅、寮等を設けている
2	農繁期休暇を設けている
3	毎朝食費を支給する
4	交通費を支給する
5	相談制度を設けている
6	慰安会、旅行などをする
7	留守宅との連絡(写真、声のたよりなど)をとつてやる
8	出稼者も昇給させる
9	出稼者にも賞与を出す
10	その他()
11	なし

問9 農家既婚婦人を雇用して、よいこと、又は困ることがあります。

1 よいこと

1	辛抱強い
2	偉大である
3	力仕事やよごれた仕事をいやがらない
4	残業をいやがらない
5	定着性がよい
6	若年労働者の面倒をよくみる
7	その他()
8	なし

2 困ること

1	欠勤が多い
2	遅刻、早退が多い
3	能率が悪い
4	責任感がない
5	残業をいやがる
6	定着性がない
7	その他()
8	なし

問10 当面の農家既婚婦人の雇用方針についておたずねします。(どれか一つ選んで下さい。)

1	常用のものを増やしたい
2	臨時のものでもできるだけ常用化したい
3	臨時をもつと増やしたい
4	常用も臨時も増やしたい
5	機械化等により全般的に労働力を減らしたい
6	農家より勤め人などの主婦の労働力をもつと使いたい
7	その他()

問11 農家既婚婦人の労働力を確保するために今後何か計画がありますか。

1	工場を農村地域へ進出させる
2	農村地域に下請工場を作る
3	内職に出し自宅でも仕事ができるようにする
4	労働条件をもつとよくする()
5	福利厚生施設をもつと充実させる()
6	その他()
7	今のところ特になし

農外就労婦人の雇用に関する室長所見

(1) 婦人の側における問題点

(2) 事業所側における問題点

(3) その他

農外就労婦人に関するアンケート（個人用）

都道府県名	事業中分類番号	事業所規模
1	30人未満	2 30～99人
3	100～299人	4 300人以上

最近農業をいとなむかたわら工場などに働きに出る農家の婦人が増加しています。婦人少年局では、このような農家婦人の方からいろいろと実状をお聞きしたいし、その生活をよくするための参考にしたいと考えていますので、この調査に御協力をお願い致します。ここに書かれた内容は、工場の人、税務署や監督署など他の人には決して知られることはありませんので、ありのままを書いて下さい。

◎記入の仕方：あてはまる番号を○でかこんで下さい。何も書いていないところにはあてはまる番号を記入して下さい。

（※印のところは記入しないで下さい。）

問1 あなたはいくつですか。

才

問2 あなたは世帯主の何にあたりますか。

- | | |
|---|------|
| 1 | 本人 |
| 2 | 妻 |
| 3 | 母 |
| 4 | 息子の嫁 |
| 5 | その他 |

問3 あなたの御主人は農業以外の仕事をしていますか。

- | | |
|---|-------|
| 1 | している |
| 2 | していない |
| 3 | 夫なし |

あなたの御主人はどのような勤め方をしていますか。

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 一年以上続けて働いている（常用） |
| 2 | 臨時にきまつた期間だけ通っている（臨時・通勤） |
| 3 | 家を離れて働きに出ている（臨時・出張） |

問4 あなたは小学生以下の小さい子供さんをお持ちですか。

- | | |
|---|-----|
| 1 | いる |
| 2 | いない |

- | | | |
|---|------------|---|
| 1 | 小学生 | 人 |
| 2 | 小学校にあがらない子 | 人 |
| | 計 | 人 |

問5 あなたの家族では家事（炊事、洗濯など）は主に誰がしていますか。

- | | |
|---|------------|
| 1 | 自分 |
| 2 | 夫の母または自分の母 |
| 3 | 息子の嫁または娘 |
| 4 | その他（ ） |

問6 あなたは何年頃から農業以外の仕事を始めましたか。

- | | |
|---|----------|
| 1 | 昭和35年以前 |
| 2 | 昭和36～38年 |
| 3 | 昭和39～41年 |
| 4 | 昭和42年以降 |

問7 あなたは一年を通じて農業をしている時間と農業以外の仕事（収入のある仕事）をしている時間と、どちらが多いですか。

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 農業を多くしている |
| 2 | 農業以外の仕事を多くしている |
| 3 | どちらともいえない |
| 4 | 農業はほとんどしていない |

問8 あなたはこの工場でのどのような勤め方をしていますか。

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 一年以上続けて働いている（常用） |
| 2 | 臨時にきまつた期間だけ通っている（臨時・通勤） |
| 3 | 家を離れて働きに出ている（臨時・出張） |

問9 あなたはこの工場でのどのような仕事についていますか。具体的に書いて下さい。（例えば部品の組立、米くり、ミシンかけ、ボビン巻、原料洗い、容器洗い、びん詰め、ラベルはり、包装、運搬、掃除、まかない等）。

- | | | | |
|------------------|---|---|---|
| あなたのしている仕事の内容 | | | |
| ※（ここには記入しないで下さい） | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

問10 あなたのこの工場での1ヶ月あたりの手取り賃金はいくらですか。

円

問11 あなたは、この工場で毎日何時に仕事を始めて何時に終わりますか。

仕事を始める時刻

(早出がふつうであればその時刻からです。)

時 分

仕事が全部終わる時刻

(残業がふつうであればそれも入れます。)

時 分

一日に働く時間の合計

(休みの日に早出、残業があればそれも入れます。ただし、昼休みなど休み時間は入れません。)

時間 分

問12 あなたは、朝工場に来る前か夕方

帰ってから農業をしていますか。

1 している

2 していない

→それはぜんぶで何時間ぐらいですか。

3 時間 分

※(ことには記入しないで下さい)

時間 分

問13 あなたは勤めを休むことがありますか。

1 ある

2 ない

→休む理由は何ですか。(主なもの2つ選んで下さい。)

- 1 自分の病気、けがや疲れ
- 2 夫、子供、老人の病気など
- 3 子供の学校のこと
- 4 近所や親戚のききあい
- 5 農作業のため
- 6 その他()

問14 あなたは勤めていて何か困ることがありますか。

1 ある

2 ない

→それはどんなことですか。(主なもの2つ選んで下さい。)

- 1 労働時間が長い
- 2 賃金が安い
- 3 仕事が多い
- 4 仕事があふない
- 5 職場が遠い
- 6 農業にさしつかえる
- 7 食事の仕度、掃除、洗濯など家事にさしつかえる
- 8 子供のせわ、しつけ、教育にさしつかえる
- 9 自分が過労になる
- 10 その他()

問15 あなたは農作業とくらべて勤めの仕事をどのように感じますか。それぞれのわくの中から1つずつ選んで下さい。

- 1 農作業よりらくである
- 2 農作業よりむづかしい
- 3 同じくらい

- 2 1 仲間が多いので楽しい
- 2 人の関係がわずらわしい
- 3 どちらともいえない

- 3 1 きまりきった仕事でつまらない
- 2 簡単な仕事だから気楽でよい
- 3 どちらともいえない

- 4 1 時間にしばられるのできゆうくつ
- 2 時間がきちんとしているのでよい

- 5 1 たとえ外に勤めに出ていても、自分の本業は農業だと思っている
- 2 勤めにしたのだから、勤めのことを第一に考える
- 3 どちらともいえない

問16 農外就労について国や県等に何かしてほしいことがありますか。(主なもの2つ選んで下さい。)

- 1 農村にもつと工場ができるようにしてほしい
- 2 勤めに行くため、交通を便利にしてほしい(バス、道路など)
- 3 家でできる内職をせわしてほしい
- 4 農村に子供を預ってくれるところを作してほしい
- 5 農業以外の仕事につくとき、仕事のやり方を習えるようにしてほしい
- 6 農業をやめて他の仕事をするのに借金や住宅の心配がないようにしてほしい
- 7 農地の売り買いや貸し借りが円滑にできるようにしてほしい
- 8 その他()
- 9 特になし

農外就労婦人に関する調査 結果報告書

昭和45年6月5日 印刷

昭和45年6月8日 発行

発行者 東京都千代田区大手町1-3-1
労働省婦人少年局

印刷所 東京都練馬区関町6-3-4
有限会社 正陽印刷